

53 ^{99m}Tc -tetrofosmin を用いた超短縮負荷心筋シンチの技術的検討及び臨床応用

村瀬 剛、横山堅志（西京都病院総合画像診断部）、梶並 澄弘（同 内科）、山本逸雄（滋賀大放）

今回我々は、 ^{99m}Tc -tetrofosmin を用いた負荷時先行の超短縮負荷心筋シンチの技術的検討を行った。プロトコールは、負荷時に 185MBq を静注、20 分かけて負荷 SPECT を撮像、終了後 740MBq を静注し、15 分後安静 SPECT を 10 分かけて撮像した。上記のプロトコールに基づいて心筋ファントームを用い、負荷時の残存カウントが安静時にどの程度影響しているか又、散乱線補正 (TEW) を使用することによりどの程度改善できるかを検討したので報告する。

54 $\text{Tc-99m Tetrofosmin 心筋シンチ逆再分布現象の意義 -Tc-99m PYP, TI-201 Overlap現象との関連-}$

高橋延和、三谷勇雄、落合久夫、石井當男（横浜市大二内）

AMI15例を対象とし、亜急性期にPY P、Tl dual心筋 planar像を撮像し、約1ヶ月目に1日法による運動負荷 TF心筋像を撮像した。TFは運動時安静時ともに5分後(E1,R1)と120分後(E2,R2)にplanar像を撮像し、その画像は10分割し、視覚的に4段階にスコア化した(0=正常～3=欠損)。各区画の欠損度の総和をTDSとした。5分後像と120分後像のTDSの差を ΔTDS とし、各区画1以上のスコアの増加を認めた場合をwashout(WO)とした。PYPとTlのoverlap現象(OV(+))は28区画(56%)に認められた。WOを示す区画はE、R共にOV(+)ではOV(-)に比べ多く($p < 0.05$)、 ΔTDS も同様にOV(+)で高値を示した($p < 0.05$)。AMIではTF画像は凍結されず、梗塞部生存心筋において逆再分布が認められた。

55 運動負荷 ^{99m}Tc -tetrofosmin心筋シンチの心/肺集積比の意義とSPECT診断能について

高良綾子（東女医大循内）、小林秀樹、井口信雄、日下部きよ子（東女医大放）、細田達一（東女医大循内）

運動負荷 ^{99m}Tc -tetrofosminシンチ (TF) の心/肺集積比 (H/L) の意義とSPECTの診断能を検討。虚血性心疾患90例を対象として1日法TFを施行。正面像のH/LはEF40%以下で 2.56 ± 0.42 , EF51以上 3.26 ± 0.61 と心機能に関連していた。冠動脈領域別の冠動脈狭窄に対する感受性 (SE) と特異性(SP)は,LAD 82.9% vs 79%, RCA 71% vs 83%, LCX 68% vs 80%。

冠動脈狭窄疾患の有無に対する診断能は、SE 95%, SP 97%と良好であった。運動負荷TF心筋シンチを用いた虚血性心疾患の診断能は良好で、特にspecificityの高い結果が特徴であった。